

# 県畜産振興実施計画の概要(その2)

## 地域別の生産計画と営農指標

### 畜産農家育成目標

各家畜別の畜産農家の育成目標は別表（前月号参照）のとおりで、46年の自立畜産農家は、少なくともこの程度以上の規模の畜産を主軸とした経営によって、他産業の所得に近い所得水準に達することを目標としている。

農家戸数では、自立経営 14,600 戸、有畜経営 58,500 戸を想定し、自立経営農家のうち酪農は 6,600 戸（45%）、養鶏 5,100 戸（35%と）、この両者で8割を占めることになるわけである。

なお本計画の地域区分は県政振興計画による計画地域区分により、次の5地域に分けて立案されている。

### 1、県南広域都市地域

岡山、倉敷、玉野、児島、玉島、西大寺、総社の各市、児島郡、都窪郡、吉備郡（昭和町を除く）浅口郡（金光町、鴨方町、船穂町のみ以下カッコ内同じ）御津郡（御津町、津高町、一宮町）赤磐郡（山陽町、瀬戸町）邑久郡（邑久町、牛窓町）、上道郡

### 2、東部地域

和気郡、赤磐郡（赤坂町、熊山町）邑久郡（長船町）

### 3、西部地域

笠岡市、井原市、後月郡、小田郡、浅口郡（里庄町、寄島町）

### 4、西北部地域

高梁市、新見市、上房郡、阿哲郡、川上郡、吉備郡（昭和町）

### 5、北部地域

津山市、真庭郡、苫田郡、勝田郡、久米郡、英田郡、赤磐郡（吉井町）御津郡（加茂川町、建部町）

### 生産計画

畜産所得の増加のためには、まず畜産生産を急速

に高めて行かなければならない。このため生産計画では、地域ごとの畜産振興の方向を示すとともに、家畜別の計画として、畜産物生産、各家畜の増殖および改良の目標や、とるべき施策の基本を明らかにし、更に将来の自立経営農家の経営指標を定めている。

### 計画地域別の将来の方向

各地域ごとに畜産による構造改善の方向を次のように計画し、振興をはかることにしている。

#### 県南広域都市

畜産による農業構造改善は都市圏内での企業的畜産が分散的に発達するものと考えられる。山陽線沿線を中心に鶏卵および肉用鶏の生産に重点を置き、養鶏ベルト地帯の形成を図る。南部平坦水田地帯は酪農の多頭化を、その他の農業地域では肉用牛の短期肥育、肉豚による農業振興を図る。

#### 東 部

他産業との繋がりから、兼業農家の養鶏、肉用牛の短期肥育および肉豚の生産を高め、このほかの農業地域では酪農を主体とした振興を図る。

#### 西 部

山陽線沿線に発達する発達ベルト地帯の一環として、採卵および肉用鶏の生産を高め、このほかの農業地域は酪農による振興を図る。

別表7 家畜別増殖計画 (単位:頭,羽)

区分	年度		40/36		45/36	
	36	40	40/36	45	45/36	
乳用牛	(3,396) 27,072	(6,970) 68,910	(205) 255	(15,500) 109,140	(456) 403	
肉用牛	69,955	85,000	122	103,750	148	
豚	35,010	60,000	171	80,000	229	
鶏	3,376,500	5,027,200	149	7,941,000	235	
計	140,556	218,082	157	310,000	217	

(注) ( )内はジャージで内数,計は家畜単位(馬,めん羊,山羊を含む)

岡山畜産便り 1963.09

西 北 部

新見市を中心とする山間地帯に、肉用牛生産、高梁市を中心とする地域の酪農と、このほかの地域の養豚経営によって農業振興を図る。

北 部

平たん水田地帯ならびに蒜山地区に酪農を、山間地帯には肉用牛生産と若令肥育を、その他の地域の兼業農家には養鶏および養豚による振興を図る。

畜産物の生産

生 乳

県下の36年の生乳生産量59,400トン、目標年次には乳牛の増殖と併せて、繁殖率および泌乳能力の向上によって316,000トン(5.3倍)に高める。地域別の伸び率では西北部地域の789%が最高である。

鶏 卵

県下の36年の生産量32,300トン、目標年次には鶏の増殖と併せて、初産月令および産卵能力の向上によって93,400トン(2.9倍)に高める。地域別には西北部地域の349%が最高である。

食 肉

県下の36年の生産量は8,423トンで、その内訳は牛肉(肉牛)47%、豚肉22%、鶏肉17%(うちブロイラー4.6%)その他14%となっている。

目標年次の46年には肉用牛には役利用面の減少と生産および育成の飛躍的増加は望めないで、肉牛の伸び率は200%程度に止まるものと考えられ、これに反し豚、食用鶏の伸びが予想される。したがって目標年次の食肉総生産量は30,200トンとなり、その構成は豚肉35%、鶏肉28%(ブロイラー12%)、肉牛26%、その他11%となる。また牛肉(肉牛)総生産量は8,000トンで、そのうち県南地域が47%半ばを占め、豚肉の総生産量は10,700トンで、うち北部38%、県南34%と両方で7割以上を占め、

鶏肉生産量は3,500トンで県南が63%と大半を占めることになる(表9)

家畜の増殖

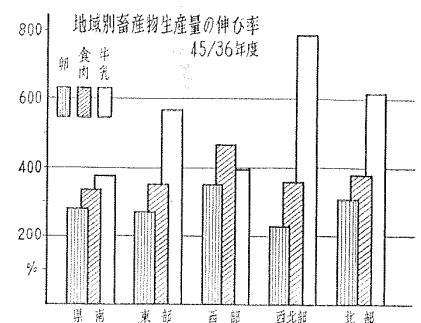
現在の家畜総飼養頭数を家畜単位に直すと162,500頭であるが、これを2.1倍の343,500頭に高めることとしている。

別表9 地域別畜産物の生産量 (単位 トン)

区 分	乳	卵	食 肉				計	
			乳用牛	肉 牛	豚	鶏		
全 県	36	59,391	32,284	339	3,988	1,886	1,411	8,423
	40	169,820	58,119	1,593	5,900	5,026	4,301	17,280
	45	316,049	93,366	2,742	8,000	10,699	8,286	30,185
	45/36	531.9	289.2	808.9	200.6	567.3	587.2	358.5
県南 広域都市	36	17,176	13,078	101	1,534	1,151	680	3,625
	40	37,626	22,298	341	2,839	1,861	1,978	7,067
	45	64,522	35,477	548	3,848	3,603	4,026	12,030
	45/36	375.6	271.3	542.5	250.8	313.0	592.2	331.8
東 部	36	3,062	2,286	13	632	82	72	849
	40	10,084	4,017	98	959	297	369	1,738
	45	18,194	6,019	147	1,300	744	764	2,966
	45/36	564.0	263.3	1,130.8	205.7	906.9	1,060.4	349.4
西 部	36	9,388	5,316	39	331	157	292	931
	40	25,018	11,479	230	472	439	1,063	2,236
	45	37,222	18,538	334	640	1,020	1,790	4,335
	45/36	396.4	348.7	856.4	193.3	649.6	613.0	465.6
西 北 部	36	7,884	2,574	39	592	143	82	954
	40	28,617	3,945	265	944	634	173	2,103
	45	62,137	5,694	548	1,280	1,239	291	3,375
	45/36	787.9	221.2	1,405.1	216.2	866.4	354.7	353.8
北 部	36	21,881	9,030	147	899	351	286	2,099
	40	68,475	16,380	659	686	1,796	718	4,136
	45	133,974	27,638	1,131	932	4,093	1,414	7,888
	45/36	612.3	306.0	769.4	103.6	1,166.1	494.3	375.8

別表8 食 肉 の 構 成 (単位 %)

年度	家畜別	乳用牛	肉牛	豚	鶏	(卵用)(肉用)		計
						(12.1)	(4.6)	
36 年度		4.0	47.2	22.3	16.7	(12.1)	(4.6)	100.0
45 年度		9.1	26.5	35.4	27.5	(15.8)	(11.7)	100.0



【肉用牛】 項 目		現在(36年) 壮令(去勢)	
		目標(45年)	若令(去勢)
能 力	肥育開始月令(カ月)	30~40	12~18
	肥 育 期 間(日)	180	180
	1日当り増体重(kg)	0.8	1.0
体 型	枚 肉 歩 留(%)	55~59	58~62
	体 高(cm)	130~135	128~132
	体 重(kg)	530~580	500~600
	体高に対する比率 胸囲(%)	150~155	152~156
	管囲(%)	13~15	13~14
(備考) 現肥育牛の80%が去勢壮令肥育である (肥育期間6カ月)。 目標年次には大半が若令肥育になる。			

成場等の設置をすすめる。

家畜別には、乳用牛頭数を約4倍の109,100頭に、1戸平均飼育規模を三倍の6.6頭に拡大、肉用牛では現在の繁殖牛70,000頭を約1.5倍の103,800頭に高め、飼育規模を1戸当り平均1.5頭を4頭に拡大する。同じく豚飼育頭数は2.3倍の80,000頭に、採卵鶏を2.5倍の7,940,000羽とし、1戸当り平均飼育規模を11倍の337羽と大幅に拡大し、それぞれ自立経営農家を重点に育成を図っていくことにしている。

### 家畜の改良

畜産経営を左右する家畜個体の能力、特に泌乳、産卵、産肉、飼料利用性等の能力についても、企業的経営を進める上に、さらに大幅に引上げて行くことが必要である。また繁殖能力、強健性についても平行して改良措置を講じなければならない。そこで今後の畜産経営の方向に即応した改良目標を定め種畜対策、人工授精機構整備、改良組織の確立等の一連の施策を中心に改良増殖を図っていくことにしている。

各家畜別の家畜個体の改良目標はつぎのとおりである。

#### 【乳用牛】

産乳量の増加と乳質の改善を図るとともに、体質強健で、連産性にとみ、飼料の利用性がよく、長期の泌乳に耐えるものに改良し、耐暑性を高めることとする。

ホルスタインにあつては特に乳房、乳頭の形状、付着、およびももの幅等、後軀の改良を図り、飼養管理の機械化、単純化を考慮して体型の斉一化に努める。

ジャージーにあつては後軀、特に坐骨幅の改良を図る。

能力および体型に関する数値は上表のとおりである。

#### 【肉用牛】

肉利用に重点をおき、繁殖能力がよく、飼料の利用性に富み、成熟率の高いことを目標に産肉能力の向上を図るものとする。体型および資質については、産肉性の向上を図るため、資質ならびに各部の均称

【乳用牛】 項 目		ホルスタイン		ジャージー		
		現 在 (36年)	目 標 (45年)	現 在 (36年)	目 標 (45年)	
能 力	305日 3回 搾乳	乳 量(kg)	4,200	5,300	2,000	3,400
		乳 脂 率(%)	3.35	3.40	5.00	5.00
		無脂固形分(%)	8.15	8.50	8.70	8.70
力	分 娩 間 隔(カ月)	16	14	16	14	
体 型	体 高 (cm)	133	135	117	122	
	体 重 (kg)	450~ 500	550~ 600	300~ 350	400~ 450	

【鶏】 区 分	白色レグホン		兼 用 種	
	現 在	目 標(45年)	現 在	目 標(45年)
産卵個数	222個	250個	210個	220個
卵重量	53g	56g	—	—
初産月令	180日	150日	210日	170~180日
成 体 重	1.8kg	1.8kg	2~2.4kg	2.4kg
生 存 率	70~80%	90%	70~80%	90%

区 別	現 在	目 標
成 長 速 度	8週令で1.19kg	8週令で1.3kg
育 成 率	96%	98%以上
飼料要求率	2.75	2.5以下

このためには適地適産の見地から、地域を選定して各種事業を通じて飼料基盤の確立、近代化施設の導入、家畜導入を促進するが、これに必要とする資金についても、農業構造改善事業推進資金、畜産経営拡大資金等の公庫資金の大量導入および農協資金による制度資金の充実、貸付け条件の改善等行政的裏付けの強化に努める。これに併せて国、県の家畜貸付事業、および家畜資源を確保するための共同育

## 岡山畜産便り 1963.09

よろしく、体積に富み、特に中軀の充実を図る。

体型および産肉能力に関する数値は上表のとおりである。

### 〔豚〕

将来加工肉の増加の見通しと、養豚の経済性を高めるため、ランドレースに重点を置くこととし、国内の配合飼料を用いた場合の飼料要求率を 3.3 倍程度におさえ、180 日で体重 90 kg、枝肉歩留りは 70% 以上を目標とする。

体型等については輸入後、日が浅いので、当面の欠点である肢蹄の強健性と耐暑性を高めることに努める。

### 〔鶏〕

卵用鶏＝卵用鶏の改良は多産強権性および飼料要求率の改善に目標を置き、経済性の高い鶏を作出することである。早熟性の付与、抗病性を高める。

肉用鶏＝飼料要求率の改善に重きを置き、経済性の高い肉用鶏の作出をすすめるとともに、肉用鶏の産卵性が低いので改良に努める。

## 種畜対策

乳用牛、肉用牛では優良種雄牛の選択とともに広く県外よりも優良牛の導入をはかり、また種雄牛の集中管理を強化して、計画的改良の促進と、精液の合理的な供給を行なう。これらに関連する施策としては、乳用牛では優良牛の効率利用のための精液銀行の設置、改良基地の設置と基礎牛の貸付事業、保証乳用種雄牛制度の実施、肉用牛では改良センター設置、産肉能力の検定、改良基地設置、種雄牛指定交配等を実施することとしている。

養豚では将来県内飼育豚はランドレース種に主力をおくこととし、ヨークシャー種との一代雑種による経済性の向上をも考慮して、両種の基礎種豚を国外、県外から導入する。また県指定種豚場を中心に種豚の生産を図りこれを繁殖養豚農家に配布するほか、産肉能力検定、種雄豚の種畜検査、後代検定事業を実施する。

鶏では種鶏改良センターを設置して優良系統を改良増殖し基礎鶏を確保する。

## 改良組織の整備

改良を効果的に進めるため、県と生産者団体が表裏一体となって各事業を実施する必要があるので、生産者団体を強化して態勢の整備をはかる。すなわち生産者団体による乳牛の経済能力検定事業の実施のほか肉用牛の指定交配、指定種鶏場の産卵能力検定、経済能力検定等も民間との協力によって実施する。

人工授精網の強化のため、人工授精師協会を設立して、生産者団体民間等の授精師の協力により人工授精業務の円滑化をはかる。

## 自立経営の方向

企業的なセンスをもった自立経営農家を重点的に振興する。しかし畜産のみによつての自立経営には、立地条件、社会的条件など制約からかなり困難が予想されるので、当然他作目との複合経営も考慮に入れて行くこととしている。

自立経営農家の各営農類型別経営収支の目標を別表「営農類型別経営収支概算」として定めている。

## 計画変更には承認を受ける

計画期間 3 ヶ年の間に変更が起きた場合で、次の事項に該当する場合は、経営計画の承認を受けなければなりません。

- 1、計画期間の変更
- 2、計画最終年度末の経営農用地の総面積、または自然草地を除く経営農用地面積の 1 割以上の減少
- 3、計画各年度末の 24 カ月以上の雌牛頭数の 2 頭以上の増減
- 4、拡大資金の用途ごとの各年度を通じての、需要額の 2 割以上の増減、または、年度ごとの需要額の 2 割以上の増減

これらの事項を変更するときは、変更しようとする個所の新旧対照表および変更の理由を記載して、変更の承認をうけることとなります。

## おわりに

資金を借り入れるためには、少々複雑ですが、経済計画書はどうしても作らなければなりません。

## 岡山畜産便り 1963.09

なぜ、このような複雑な計画書を必要とするのか、と申しますと畜産経営をより効率的なものにするために多額の資本を投入することにあるわけです。

また、これとともに借りようとする人は、近代的な畜産経営を確立しようとする意欲のおう盛なものと考えます。

したがって、このような意欲のある畜産農家に、より計画性をもたせることにより、収益性の高い経営を確立するために複雑な面もありますが、計画書を作成することになっています。

またこの資金の借入れによって実施する場合は、農業改良普及所、市町村および農協が直接指導にあたりるとともに、資金の円滑な運用をはかるうえからも、適切な指導をすることにしています。

別表10 営農類型別収支概算 (目標)

畜種	類型名	経営土地および家畜規模	主作目の粗収入					所得率	所得	家族労働力	備考		
			主作目	作付飼養	総収量	単価	総粗収入						
乳用	水田酪農型	水田 100a 畑 50a 計 150a ホルスタイン 11頭 (成8, 育3)	乳用牛	8頭	33,920kg	32.00円	1,235千円	46.8%	578千円	5人	収入には犢も含む 牛乳生産 1頭5,300kg, 自給率70%, 年間労働 3,315時間, 飼料作延1.25ha		
	水稲酪農型 (平坦地)		水稲	100	4,800	81.18	390千円	73.1%				285千円	(3)
牛	草地酪農型	水田 100a 畑 50a 計 150a 草地 200a ジャージー 14頭 (成10, 育4)	乳用牛	10頭	27,200kg	46.25円	1,258千円	57.2%	719千円	5人	収入には犢も含む 牛乳生産 1頭3,400kg, 自給率80%, 年間 3,304時間, 飼料圃1.25ha, 裏作0.2ha		
	水稲酪農型 (山間地)		水稲	100	4,800	81.18	390千円	73.1%				285千円	(3)
肉	肉用牛生産型 (放牧形式)	水田 150a 畑 10a 計 160a 草地 250a 和牛 7頭	和牛	7頭	子牛 2頭 肥育牛 2頭 廃牛 1頭 計	60,000円 70,000円 90,000円 計	120千円 140千円 90千円 350千円	50.4%	176千円	5人	(3) 飼料自給90%, 年間畜産関係労働 128時間, 水田裏作0.85ha 飼料圃化		
	水稲そさい和牛型 (放牧)		水稲 蔬菜	150a			584千円 180千円 計 1,464千円	73.1% 56.7%				427千円 102千円 715千円	
用	肉用牛生産型 (舎飼形式)	水田 150a 畑 10a 計 160a 和牛 5頭 (成3, 育2)	和牛	5頭	子牛 2頭 廃用 1頭 計	50,000円 90,000円 計	100千円 90千円 190千円	35.9%	68千円	5人	(3) 飼料自給80%, 年間労働 797時間, 水田裏作, 輪作, 他に農外収入 150千円, 農家総所得747,331円		
	水稲そさい和牛型 (舎飼)		水稲 蔬菜	150a			584千円 180千円 計 1,144千円	73.1% 56.7%				427千円 102千円 597千円	
牛	肉牛肥育型I	水田 150a 畑 50a 計 200a 肥育牛16頭 (若令)	肥育牛	16頭	16	120,000円	1,920千円	23.5%	451千円	5人	自給率70%, 年間労働 1,840時間, 飼料圃畑 0.4ha, 水田裏作 1.0ha		
	水稲肥育牛型 (山間地)		水稲	150a			584千円	73.1%				427千円	(3)
牛	肉牛肥育型II	水田 120a 畑 40a 計 160a 肥育牛20頭 (老令2回転)	肥育牛	20頭	20	140,000円	2,800千円	20.1%	564千円	5人	自給率50%, 2,010時間, 飼料圃畑0.4, 水田裏作1.1ha		
	肥育牛体稲型 (平坦地)		水稲	120a			468千円	73.1%				342千円	(3)
豚	肉豚專業型	肉豚 300頭 (100頭) (3回転)	肉豚	300頭	300頭	15,249円	4,575千円	17.2%	796千円	5人	100頭3回転 年間2,737時間		
	繁殖肥育養豚型	種豚 5頭 肉豚 60頭	種豚	5頭	肉豚 60頭 廃豚 1頭 計	15,249円 24,000円 計	915千円 24千円 1,009千円	34.9%				352千円	自給率30% 飼料圃0.5ha 年間1,700時間
	肉豚	肉豚 60頭	肉豚	60頭	60頭	15,249円	915千円	29.0%				267千円	自給率20%
鶏	水田養鶏型 (採卵)	水田 70a 鶏 1,000羽	鶏	1,000羽	13,450kg	170円	2,528千円	17.4%	439千円	5人	廃鶏鶏糞を含む 裏作にビール麦を含む 産卵率67%		
	採卵鶏水稲型		水稲	70a			354千円	86.5%				307千円	(3)
鶏	水田ブロイラー型	水田 50a ブロイラー 12,000羽	ブロイラー	12,000羽	15,600kg	175円	2,845千円	20.9%	594千円	5人	鶏卵生産 1羽1.3kg ビール麦を含む		
	肉鶏水稲型		水稲	50a			246千円	82.5%				203千円	(3)
			計			3,091千円		797千円					